

ベ ス ト ピ ア
Bestopia

小 原 靖 夫

ベストピアは小原靖夫の
個人誌です。

平成二十三年四月
第二十九号

東北関東大地震 2

(1) 桜花哀しみて散れり

東日本大震災の諸被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い収束をお祈りいたします。

今年の桜の花はゆっくりと咲き、私の家に至る山道は、菜の花、紫大根の花と赤い椿が満開の桜を支えていました。その爛漫の桜を見て感じる心情が今年違います。桜の方が咲き方を変えたのか憂いの色が濃く漂っていました。それとも、見る私の（人間に方）悲しんでいる心情がそのようにさせるのでしょうか？

『桜を見ている人の表情は、一見はなやいでいるいかのようだ。しかし、よく観察していると、群れから一人はなれて、ぼうっと花を見上げている呆けた顔が必ずある。サクラは、本当は人を鬱にさせる花なのではないか。少なくともわたしはサクラをみるたびに胸が苦しくなってくる。悲しくて、ではない。なんともいえぬ怒りのようなもの、不条理な感覚におそわれて、苦しくなってくるのだ』（五木寛之 2010年4月6日日刊ゲンダイ掲載 流されゆく日々-8437号）

かつて訪れた北上川の堤の桜は今年はどうな咲き方をしているのだろうか？多くの東北の友人と今年はその桜を愛でるために訪問しようとしていたその地の桜をおもいながら

” 敷島の大和心を人間はば、
朝日に匂う山桜花”
の句を思い出しました。そして平成 23 年

4月16日(土)花散らしの雨を待てずに、ゆらゆら無数の花びらが舞い始め、菜の花の間に大地を見つけてもどっていきます。やや強い風が花びらを巻き込み我が家の庭にも、私に見てほしいと言わんばかりにひらひらとやってきました。

” 散る花のなにをか言はんうらめしき、
北国の春何処にやいかん”

(2) 収束の見えない原発の被害

このことについて私は三つのことが気になっています。

①その一つは、地震直後にアメリカ人を始め外国人は福島原発がどうなるかとその恐ろしさをよく理解していたということ。フランスは臨時の飛行機を用意して自国民を戻し、オーストリア大使館は早々に業務地を大阪に移転するなど被爆被害の恐怖を既に知っていたことです。

②二番目は技術立国を自賛してきた我が国の原子力への知識と技術レベルの低いことに驚きを禁じえません。日本の技術力をもっと高かったのではないかと今は無力さに唾然とするばかりです。正しい知識と原子力を統御できる優れた技術がないままに52基も原発をプラントされていたことになります。

③更に、今更にとのことですが、官僚にしても、東電にしても組織というものは誰も責任をとらない仕組みになっているということが明確になりました。上は下に怒鳴って命令をするだけ、方針も方向性も示さず「早くしろ、なんとかならないのか なにをしているのか」との” 決まり文句” をオーム返しに、川が流れるように下に向か

って言い続けるだけで上司が務まる。不幸なのは被災者で、原状復帰には並々ならぬ時間と努力が必要で、それに耐えられない者は減っていきます。

収束にたいする方針と計画が立たないということは、現状を正しく評価できていない、その能力がないということです。外国からは情報を隠していると批判されていますが、なにを発信していいのか、発信すべき情報が無いのではないかと疑われる。

アメリカやフランスあるいはロシアは原発事故の収束能力を持っていて、日本政府が藁をも掴む状態になって助けを求めたら、出陣してくれるのでしょうか？

もしそうでないとしたら誰も答えを持たない事態の発生となり終わりの見えない試行錯誤が続くこととなります。

(3) 日本の使命は先進的技術力を創造すること

資源を持たない我が国はその存在意味を先進的技術力に見いだしてきました。唯一の被爆国として原子力を平和利用するには、核の廃棄物を無害にする技術、今回のような事故に対処できる技術を開発すること。人文科学的な言い方にすると、「ゼロ」にすることおよび「ストップ」できるようにすること。原子力を消滅する安全な方法等、日本は制御装置には世界に冠たる技術力を誇ってきたと伺ってきました。世界はそのように思っていたかも知れません。被爆国日本が大量に導入する原発は GE をはるかに凌ぐ改良がなされていたかと思っていたかもしれません。日本政府が売り込む原発に対する期待は地球温暖化に苦しむ世界の注目を浴びていたのではないかと考えられます。願わくは早期の収束を祈ります。全てに近い国民が願っています。外国の助けでもいい、日本の発明でもいい、一刻を争います。外国の助けをもらおうと日本が占領

されるという人もいますが、それでもいい。脱占領には体験的な知恵があります。もし、誰もがこの収束への答えを持っていなかったとしたら、ことは日本だけの問題ではなく人類の存続の問題になるのではないかと私は思います。

大震災の少し前(2月24日)NHKのプレミアム8でジャレッド・ダイヤモンド博士(カリフォルニア大学)が終わり近くに語っておられた次のような内容のフレーズに希望を見いだすことができます。

『近代は進歩という馬と破壊という馬の二頭が競争している。どちらが勝つか判らない。競争を止める決断が必要である。私は51%のHOPE(希望)を信じている。1%だけ希望が絶望を上回っている。自分は慎重な楽道家である』

進歩しすぎた文明を後戻りする科学とは原子から原始、原子に対抗するのに紙おむつや木のおがくずが用いられたことが記憶に新しいです。

(4) 世界の日本に向けられている目

①震災直後のメディアは、地震と津波の驚異的な恐怖とパニックな状況の中でも冷静さを失わず規律正しく行動し、助け合い、略奪や暴動のような騒乱も起こらなかったことに大なる讃辞のことばと励ましを送ってくれました(国連の調べによると4月15日現在海外からの義援金は545億円相当—現在義援金の額は約1,500億円位)。

地震当日、私も同じ事を感じ新横浜で行列の一人でしたが、その時「武士道」(新渡戸稲造)をチラっと思ひ浮かべたほどです。戻って本をとりました。

「民衆がどこでも、いつも礼儀ただしのは武士道の遺産である。—中略—ちびのジャップの身体にあふれる忍耐強さ、不撓不屈の精神、勇敢さは—中略—武士道の影響は、今なを深く根ざして強いもの

がある。しかし、それは意識されたものではなく無言の感化である」(現代語訳武士道ちくま新書 P182-184)

ご存じのように、この著は 1899 年に書かれたものです。そして、この著の末尾は、武士道の弔鐘を鳴らしています。

「武士道の余命の日々はすでにカウントされているように思われる。その未来を示す不吉な徴候が漂っている。徴候だけでなく、悔り難い力が武士道を脅かしつつある。――中略――産業階級そのものの中で、儀礼の掟が衰退したこと、換言すれば生活の通俗化は、繊細な感受性をもった人々の目から見れば、文明の末期的な症状の一つである。社会の状況が大いに変化して、武士道に不都合だけでなく敵対的とさえなった今日こそ、その名誉ある葬送の準備をすべき時である。」(前掲書 P192)

産業階級から消え始めたことを意味していると思われまます。個人のレベルでは今回の震災に遭っても秩序ある行動をした民衆には、まだ武士道の DNA は遺っていたが、政府や会社には新渡戸稲造の 112 年前の予言が的中しています。

②政府の能力の無さには厳しい非難の声が聞こえてきます。内容の良く判らないトップメッセージ、心情のない謝罪会見、法律がないと動けない官僚、これらのリーダー達からは情熱が感じられない。原発の収束が遅れば遅れるほど世界の目は厳しくなり、日本の経済がマグニチュード 9.9 程のパンニックに襲われるかも知れない。これは誰でもが感じていることです。

(5) 自己犠牲で働く人々

あまり報道されませんが、どれだけ放射能が漏れているか判らない原子炉の現場で働く人々、今も命がけで復旧作業に勤しんでいただいている人々、病人を診察されて

いる医師看護師、福祉の現場でやりようもないにもかかわらず、あきらめず工夫をしておられる介護士の方々、自己犠牲を顧みず勇気ある行動をとっている方々に頭を垂れます。

どんな進んだ文明でも、最後の始末をするのは人間です。それも政治家、官僚というエリート集団ではなく、心情ある個人なのです。各地の医師会も救護班を送っています。小さな病院も参加しています。どんな深い絶望からも人は立ち上がる力を与えています被災された方々にその勇気が湧いてこられますように私たちは祈りを一つにしたいと思います。一人一人の祈りが、一人一人のフォーカス(被災地の復興に意識の焦点を合わせる)し、力強いエネルギーが与えられますように祈ります。

(6) 余震が続くなかで

平成 23 年 4 月 16 日(土)も私が乗る新幹線が 10 分程度止まりました。

震度 5、東京一小田原間が停電します。震源地の南下は更なる被害をもたらします。首都圏直下型や東海沖地震の確率は 30 年以内に 87% ということです。東日本地震の予想は 30 年以内に 99% でした。この予報をどう読み解くかは、なかなか難しいものです。要は明日来てもおかしくないということ政府機関は言いたいのでしょうか。

しかし、その情報をだしている政府機関が適切な準備をしていないことが明らかになりました。浜岡原発など緊急にやれることをやり、発表するのが予報をだす政府の仕事と思うのですが、「予報あっても対策無し」。個人レベルでの準備対策を心がけねばなりません。私の家は神奈川県最西端の小さな町の、その端の山奥 5 軒部落です。一朝何かあっても切り捨てられる運命にあります。覚悟をして住んでいまして、東北地方の人々の被災、艱難は私たちに先立つ

苦しみであり、私たちに代わって背負ってくださっている艱難であると私は考えています。

花チラシの雨を待てず、森に吹く風に舞う美しい桜花を見て、何だか申し訳のないきもちになります。

原発事故の収束に力が与えられますように、被災した方々の健康が守られますようにお祈りいたします。

平成 23 年 4 月 16 日(土)

不思議な空間

有名ブランドの立ち並ぶ、いつも人通りが多く賑やかで華やいでいる 東京銀座の真ん中に不思議な空間があります。松屋の丁度向かえに今をときめく、iPhone, iPad で有名な Apple の 4 階です。

清々しい水色の制服を着たスタッフが親切に顧客に対応している 1 階は非常に明るい展示販売場でいつも老若男女で熱気が漂っていて不況が感じられません。その人混みをかき分けて突き当たるとどっしりとした警らマンがいるエレベーターにいきあたります。その不思議な空間はそのエレベーターの中にあります。私は Mac の研修のため 4 階にありますが、毎回そのひとときをととても楽しみにしています。

まことに、ゆっくりとガラス張りのエレベーターが降りてきます。乗る人はみんな無言で譲り合っているようです。しばしば始めて利用する人がいますと、その始めての人は自分の行き先階のボタンを探します。キョロキョロまではしませんがキョロ位は大抵の人がしますので、慣れている人はこの人も我々の仲間これからなるのだということを知覚するわけです。ボタンは全く無いのですくだんのエレベーターは自動的に安全を確認してゆっくり扉を閉めます。

扉が閉まって動き出す迄の時間が微妙に

心地よく、スタートもゆっくり動きもゆっくり 2 階に到着です。降りる人がいなくても、乗る人がいなくても必ず止まり、扉の開閉がゆっくり繰り返されます。エレベーターの中からは各階の様子がよく見えるようになっており Mac への興味を増進するようになっています。造りが頑丈にできており、外が見えるためかエレベーターの中においても閉塞感がありません。そのゆっくろさが不安ではなく日常からの解放を感じ取り心地よさに変わっているのです。

私は一瞬ここは「銀座か！」と意識して今自分が居る場を確認することがしばしばあります。

4 階に到着すると現実が戻ってきますが、親切で爽やかなスタッフが「おまちしていました」と言わんばかりのアダルトな対応をしてくれます。感心することは徹底したアダルトな対応、言葉遣いです。何回通って顔見知りになっても、なれなれしくなることがない。

好き嫌いも多少感じられなくはないが、よく努力しているのが私には判るのです。ここに来る生徒の多くは私のようにかなりの人生経験をしているもののメカにはめっきり弱い、はっきり言って、「手のかかる老人」なのです。私の方にも好悪の感情がありますが、そこは教わる身、よくわきまえてレッスンを受けます。指名が出来るのか否かを私は知らないし聞こうとも思わない。このルールが私には合っている。

教える方は大変です。人によって聞く内容は異なるしレベルも違う、その知識の深さは半端ではない。時々名刺を貰うことがありますが、クリエイティブ、スペシャリストという肩書きがあります。

毎回教わる人が変わる事は私にとっては良いことの方が多い、例えば、同じ事を何度聞いてもいやな顔をされる心配がない。なるべく嫌がられないように清潔に心がけ、

予習も出来る範囲でして要領よく質問を用意するように努力して、その不思議な空間をエンジョイしています。

孫の俳句、川柳、短歌

私には自慢の孫が二人います。上は中学1年生の女の子、下は小学校5年生の男の子です。孫娘はベストピアに何度かありのままの作文を載せたことがあります。今月号では下の孫のユーモアたっぷりの作品を載せます。まず、先月号の写真ですが、「平和」を意識した素晴らしい絵です。阪急バスにしばらくの間かかっていた。(昨年10月)今年2月に宝塚に行った時、1枚の用紙を差し出してくれたのが次の歌です。順序もいじらず、原文のまま残すのが私流です。

2011/02/16

おこずかい、いつしか変わって、お給料。

すき間から、見えるは、外のぼたん雪。

やきいもを、二つにわって、ゆげひとつ。

ねこにこぼん、こずかいあげて、
わかったこと。

りんりんと、風鈴そよかぜ、
ありがとな、秋に変わるこの季節。
先生の頭の上に黒いくも、
いつ落ちるかは、わからない。

剣道で、清めた心とぎすまし、
勝利の道へ進むべし。

スカイツリー俺の分まで頑張れよ、
東京タワーの気持ちかな。

おはようと、小さな小鳥かけよって、
めざめる朝はまだ寒い。

この前まで、小さかったわが息子、
ボーとしてたらわからない。

官邸周辺ではやるパロディー詩

「大丈夫？」っていうと、「大丈夫」っていう
「漏れてない？」っていうと、「漏れてない」
っていう
「安全？」っていうと、「安全」って答える。

そうして、あとで怖くなって

「でも、本当はちょっと漏れてる？」っていうと、「ちょっと漏れてる」っていう。

こだまでしょうか？いいえ、枝野です。

「こころ」は見えないけれど、
震災利用の「下心」は透けて見える
「思い」は見えないけれど、
「思い上がり」は誰にも分かる。

(2011年4月1日日刊ゲンダイ掲載より、
一部引用)

追記

4月17日政府から原発復興計画が発表されました。その日クリントン国務長官が来日され、天皇皇后両陛下及首相と会談されています。偶然でしょうか？予定どおり？